



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2024～2025年度 RI会長 ステファニーA.アーチック
RIテーマ ロータリーのマジック

クラブテーマ「ロータリーの理解を深め、地域社会にロータリーのマジックを広めよう」

会長 仲原実圭 幹事 原 兄多

第1581回 例会 2024.10. 4(金)曇

司会：高村勝則君

ロータリーソング「奉仕の理想」 指揮：杉山寿美子君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 仲原実圭君

本日は3350地区の飯田PDGが、2620地区の米山奨学会の卓話を聞きに駆けつけて頂きました。そして本日の卓話を引き受けて頂いた、甲府南RCの渡辺郁様、本当にありがとうございます。今日はこの後の卓話を30分用意しておりますのでよろしくお願ひ致します。そして、本人曰く渡辺郁様の付き人です、と言い切って訪問していただきました三島RCの堀内満喜子第1グループガバナー補佐エレクト、ようこそおいでくださいました。堀内さんは米山奨学生のカウンセラーを歴任しており、ロータリーの学友会の委員でもあります。ありがとうございます。

さて、恒例のロータリー月間に移りますが、今回は「地域社会の経済発展」というテーマです。同時に米山月間でもあります。今日配布されております『ロータリーの友』の地域社会の経済発展特集ですが、名士の足跡とロータリークラブという記事で地域社会の発展に尽力してきた名士の紹介で米山梅吉翁が紹介されております。日本ロータリーの生みの親だけでなく経済人として大きな活躍をしてきた米山翁です。この辺も含めてこの後の卓話お聞きください。

ちなみにあと2名紹介されていますが、渋沢栄一、福沢諭吉です。この2名は超有名人ですが、肩を並べる米山梅吉翁はロータリアン以外の人たちはほとんど知らないのではないかと思います。このような功績を伝えるのもロータリアンの使命なのかもしれませんね。

今日ご紹介するロータリープロジェクトは、ブラジル、第4391地区のMaceio-Farolロータリークラブが支援する活動で、‘持続可能な植林と勇気農業を組み合わせることで土壌の持続可能性を高め、農作物の生産量を増やそう’という取り組みです。成果としては食物の生産量が向上し、自分たちが消費する以外のものを市場で販売することが出来るようになったとのこと。これも立派な経済発展ですね。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	29/38	76. 32%	29/38	76. 32%
今回	35/38	92. 11%	会員総数	40名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。

新井君、伊丹君、入江君

(*出席免除会員の欠席者 片野君 山本君)

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

RI第3350地区パストガバナー 飯田光孝様
米山記念奨学委員会 渡辺郁君(甲府南RC)
日原誠君(富士宮RC)
堀内満喜子君(三島RC)
川村結里子さん

おめでとう

会員誕生日 10月1日 土屋 巧君
入会記念日 10月7日 杉橋 聡君



幹事報告

幹事 原兄多君

1. 本日、例会終了後に理事会を開催します。
来週は、昼例会で米山記念館での移動例会になります。
12月8日のIMの出欠を報告してください。



米山記念奨学委員会委員 渡辺郁君(甲府南RC)

「ロータリー米山記念奨学事業」は、ロータリーが目指す国際理解と親善、世界平和に寄与することを目的としている。本事業は 1952 年東京RCの奨学事業(米山基金)構想を踏まえ、わずか5年で日本全国の共同事業へと発展、1967 年に文部省(当時)を主務官庁とする財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立(2012 年公益財団法人へ移行)され、歴史的にも世界に類を見ない日本のロータリー独自の全 34 地区合同プロジェクトとして現在に至っており、設立から一貫して国を問わず外国人留学生を支援している。米山記念という冠は、日本のロータリークラブ創始者のひとり、米山梅吉翁の名前に由来しているが米山梅吉翁が始めた事業ではなく、1946 年に米山梅吉翁が亡くなった以降にその偉業を讃え、その奉仕の精神を受け継ぐべく名付けられている。そこには二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したいという、当時のロータリアンたちの強い願いがあった。ロータリー米山記念奨学会史にはこう書かれている。「将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を肌で感じてもらうしかない。それこそ、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないだろうか」構想から本年度で70年になるが当時の想いは今も脈々と受け継がれている。ロータリー米山記念奨学会と他の奨学金との違いとして、①日本全国のロータリークラブ会員の寄付が財源 ②事業規模は国内民間の外国人留学生奨学団体で最大 ③創立から一貫して外国人留学生を支援④世話クラブ・カウンセラー制度によるサポート体制の充実。以上4点を挙げることができる。また、最大の特徴である世話クラブ・カウンセラー制度は、奨学生一人に対し、ひとつのロータリークラブが【世話クラブ】となる。またそのクラブのロータリアンから一名の【カウンセラー】が専任され、留学生の相談役を務める。奨学生はクラブの例会や奉仕活動に参加が義務付けられ、ロータリアンとの交流を深める中で、国際平和や奉仕の理念を学ぶ。したがって、米山奨学生は奨学金を受け取るだけでなく、顔の見える交流を一番大切にし、積極的にロータリーに参加する姿勢が求められる。

米山記念奨学生の選考と奨学金として、米山記念奨学生になるにはルールがある。まず地区内にある指定校からの推薦が必要になる。奨学会で許可された指定校が、学内から米山記念奨学生として相応しい学力とコミュニケーション能力を持つ学生を選定し応募する(担当教官の推薦状も必要)その後、全国共通の指定校推薦制度にて応募があった学生を全国統一の書類選考、面接選考を経て、最終的に毎年全国で約 900 名程度を採用している(2023 学年度は全国で 880 名、うち新規採用は 623 名、当 2620 地区割当は 27 名、うち新規採用は 18 名)全国統一の基準としては、【将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか】【交流への熱意があるかどうか】【人柄の良さ】【コミュニケーション能力の高さ】+【地区裁量】として、日本語で意思疎通できる。もしくは日本語での会

話に意欲ある学生が有利とする。学問、研究に今後も積極的に取り組む姿勢がある学生を優先。ロータリー活動に関心を示しかつ積極的に協力し、将来日本と母国との親善を深めようとする学生を優先などが挙げられる。

普通寄付金と特別寄付金について、米山記念奨学事業への寄付は二通りある。①普通寄付金:日本の全ロータリアンからの定期寄付でクラブが金額を決められる。半期に一度、会員数分を送金する。当地区は4,000 円以上。②特別寄付金:個人、法人、クラブから普通寄付金以外の任意寄付。金額の決まりはなく、ロータリアン以外からも受付けている。当地区は12,000 円以上。地区の目標寄付額は、普通寄付と特別寄付を合わせて、一人が年間 16,000 円以上としている。結びとしまして、ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリアンの善意で成り立っております。皆様からいただいた寄付金はクラブでの奨学生の受け入れに関わらず、全国の奨学生を支援する為に使用させていただいております。コロナ、円安、資材高、人材不足等の影響で経済が圧迫され皆様方の企業も大変な環境下におかれていると思います。こんな時代に外国人学生を面倒見るのは“どうか”とか、寄付は“ちょっと”と思われるのも当然あると思います。しかしながら戦後の 1952 年、国際平和を願った当時の日本のロータリアンは「こんな時だからこそ何かできることはないだろうか」と模索し、心を合わせてこの事業を始められました。そんな時代の節目である今だからこそ、これまで日本のロータリアンが少しずつ築き上げてきた平和への願いである本事業を支え、次の時代につなげていかなければならないと強く思うと同時に、民間外交としてこれからも世界に平和の架け橋を数多く架け、平和を求める日本のロータリアンの意思と絆を世界に伝えていけたらと思います。せせらぎ三島ロータリークラブの皆様におかれましても、今後ともお力添えをお願いいたします。

本日は卓話にお招きいただき、誠にありがとうございました。

10月度理事・役員会報告

日時 令和6年10月4日(金)19時30分~20時00分

場所 呉竹(例会場)

(理事)仲原、岡、服部、高橋、原、杉橋、遠藤、大村、藤川(役員兼任)、高村、大川、(役員)小島(オブザーバー)
中村・加藤・・・クラブ懇話会より

議事録

1. 会長挨拶(仲原会長)
2. 古着DEワクチン回収キット追加購入について(職業奉仕委員会)地区事業協力のため回収キットを追加購入したい。→ 一同異議なし(承認)
3. 地域交流ゴルフ大会及び親睦会について(親睦活動委員会)予算案の承認を得たい。→ 一同異議なし(承認)
4. 連絡報告事項
上岩崎公園秋まつりの手伝いについて(幹事)
青少年奉仕委員会で取りまとめをする
5. オブザーバー講評

中村バスター会長・・・細則・内部規約の変更を進めなければならない。役員選任、会計等々多岐にわたる。新旧対比ができるよう案を検討するので、理事会でも承知して欲しい。
加藤バスター会長・・・細則・内部規約の変更については、優先順位を決めて進めて欲しい。皆への分かりやすい説明が必要だ。